

こんにちは！クリスマスがやってきましたね。子どもたちが一年で一番楽しみにしている日ですね！今日はそんなクリスマスのおはなしを1冊紹介したいと思います。

『子うさぎましろのお話』

ぶん・ささき たづ え・みよし せきや ポプラ社 1050円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★★ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆  
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

北の国にすむ子どもたちはサンタ＝クロースのおじいさんから一番初めにプレゼントをもらいます。子うさぎのましろはその中でも一番さきにもらいましたが、すぐにもうひとつプレゼントがほしくなりました。けれども、クリスマスのプレゼントは一人ひとつと決まっています。考えたましろは、体をすみで黒くしてサンタ＝クロースのおじいさんの帰りを待つことにします。他のうさぎになりかわろうと思ったのです。世界中の子どもたちにプレゼントを配って帰ってきたサンタ＝クロースのおじいさんは、この黒いうさぎを見てすぐにましろだと気付きますが、ましろが一生懸命ほかのうさぎのふりをしているのを見て、プレゼントを入れていた袋の底に残っていた種をましろにくれます。

ましろはサンタ＝クロースのおじいさんをうまくだましたと思い得意顔で家に帰ろうとしますが、ふとおかあさんが自分に気がついてくれるか心配になります。そこで、体についたすみを落とそうとしますが、落ちません。ましろはこれはきつとうそをついてプレゼントを2つもらったからだと思えます。いろいろと考えたすえ、ましろはこの種をかみさまにおかえししようと思いつき、雪をかきわけて種を土に植えるのですが……。

<子どもに手渡すときのポイント>

この本は絵本としても楽しめますが、おはなしとして語っても楽しめる1冊です。絵本の絵はシンプルですが、おはなしとして聞くと子どもたちの想像力をかきたてる場面がいくつもあります。クリスマスには毎年繰り返し聞きたいおはなしのひとつではないでしょうか？

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。  
ぜひ手に取ってみてください。

